eco-op 2020

～環境活動の手引書～

おすすめ①

環境活動を
これから
始めたい人へ

おすすめ②

環境問題の
現状をもっと
学びたい人へ

おすすめ③

環境活動の
実践事例を
知りたい人へ

univ. CO-OP

はじめに

eco-op 2020 ～環境活動の手引書～

■eco-opの発行目的

環境活動の意義とやりがい、そして具体的な活動例を伝えることで、全国大学生協連の各会員生協での積極的な環境活動の実践を促すために、全国環境活動推進委員会としてこの冊子を発行します。

■全国環境セミナー2019との繋がり

本冊子は、「全国環境セミナー2019」での学びの内容を基に作成されております。そのため、セミナーに参加した方は学びの復習に、参加したことない方も、セミナーでの学びに触れるきっかけとなります。

Topics 1 リ・リパックについて　～『ヨコタ東北訪問記』～

Topics 2 Plastics Smartについて　～大学生協も賛同しました～

Topics 3 プラスチック問題に対する大学生協の取り組み方針

Chapter 1 環境問題の現状を知ろう

- ✓ いまを取り巻く環境問題～人間が与える影響～
- ✓ 環境活動とは～環境活動の背景とは？～
- ✓ 環境活動の意義～「なぜ」を理解する環境活動～
- ✓ 「大学生協が」環境活動に取り組む意義

Chapter 2 環境を守るために私たちができること

- ✓ 世界のみんなで目指す目標～SDGs～
- ✓ 持続可能な開発って？
- ✓ 私たちの生活の中でできること～身近なところから～
- ✓ みんなで環境活動に取り組もう
- ✓ 三重宣言～まず取り組むべき5つの宣言～
- ✓ JUON NETWORKとは

Chapter 3 大学生協の活動と実践事例から学ぶ

- ✓ 大学生協の活動～活動の種類と環境への影響～
- ✓ 大学生協の活動～大学生協ならではの意義～
- ✓ 全国の環境活動～学生委員会実態調査より～
- ✓ 活動実践事例紹介ページ

Topics 1

リ・リパックについて

～『ヨコタ東北訪問記』～

●リ・リパック学習用資料を作成しました！

2019年11月に山形県にある(株)ヨコタ東北さんに訪問し、その時に学んだ内容をもとにして、「リ・リパック学習用資料」を作成しました。
　右下の二次元バーコードを読み取るとデータ（パワーポイント、ワードとそれぞれのPDFの計４種類）が取得できるので、リサイクル容器回収の意義について学習する際などに使用してください。
（データ容量（約70MB）には注意してください！）

●リ・リパックについて知ろう！

●阪神淡路大震災の生きる知恵から生まれたリ・リパック

1995年に発生した阪神淡路大震災では水道をはじめとしたライフラインの多くが寸断され、飲み水すら手に入らない生活が続いていました。

その中で、食事をする際にお皿にラップを敷き、大切な水を使わずにお皿を再利用できる工夫に着想を得て、現在のリ・リパックが開発されました。

●社会に貢献する二つの側面 【環境面】

水資源を守る

トレーを洗わずにリサイクルできるので、水を節約し、また、川や海を汚しません。
このため、水の使えない屋外での使用にも適しています。

ゴミを減らす

はがしたフィルムだけがゴミとなるので、ゴミの量を大幅に削減することができます。
また、フィルムは燃やしても有害なガスや物質が発生しないため、安心です。

天然資源を守る

簡単にリサイクルに参加できるので回収量が増加します。再生原料を利用することで天然資源の使用抑制と保護につながります。

Topics 1 リ・リパックについて

～『ヨコタ東北訪問記』～

●社会に貢献する二つの側面 【福祉面】

学習資料に掲載している資料の一部を載せています。
全部で４つの施設、事業を掲載しています。

特別非営利活動法人　たんぽぽ作業所

障がいを持つ人々に対して社会の一員として、
障害福祉サービス事業（就労継続支援事業）
家族に対する相談事業 を実施
共に生きる社会の実現を目指している

山形県立新庄養護学校

知的発達に障がいのある児童生徒の個に応じた教育をする学校

小学部から高等部まであり、その中の高等部にある普通科就労コースでリ・リパックのシール貼りが行われている

リ・リパックを教材として使用しており、スムーズに身支度を行う練習や集中力の向上など、卒業後の**職業選択の幅を広げること**にもつながっている

●私たちにできること

普段、何気なく回収を行っていたリ・リパックも、実は環境面に配慮されているというだけではなく、障がい者の社会参画の機会の創出にもつながっています。
リサイクルすることのできるただのプラスチック容器という認識を変え、**リサイクル可能な食器**であるということを意識し、これからの回収活動を取り組んでみませんか？

「大学生協方式」と呼ばれる回収方法→
カゴに回収する種類のリ・リパックを固定しその上に重ねてもらうだけにしておくことで回収率の向上が図れます。

『剥がして・重ねて・水いらず』

リ・リパックの回収活動の合言葉です。
一人ひとりの意識や行動の積み重ねが大きな成果につながります！

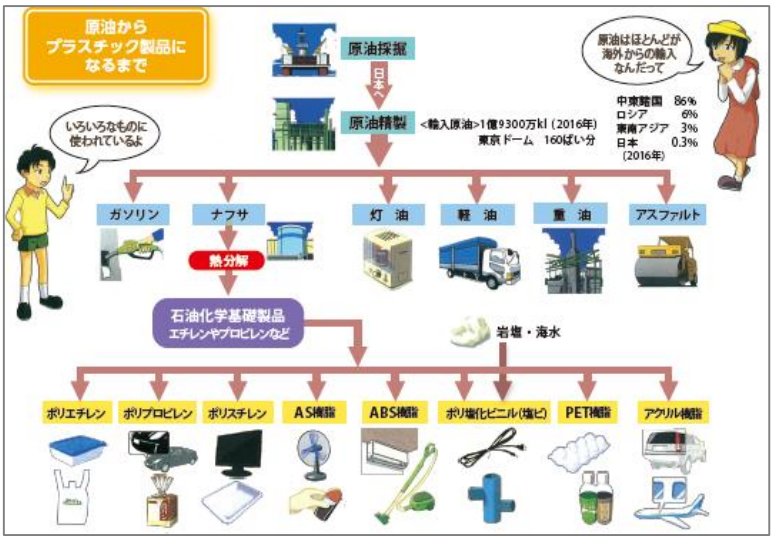
Topics 2

Plastics Smart について

～大学生協も賛同しました～

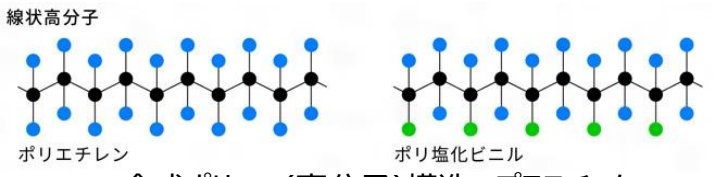
●プラスチックは便利。一方で環境問題も引き起こしている…

プラスチックの原料
- ✓原油が原料となっている ことがポイント！
- ✓原油を精製してできたナフサが素材になる。



石油が原料となっている素材を燃やして処分することで、温室効果ガスである二酸化炭素を排出しており、**地球温暖化につながっている**。

プラスチックの性質
- ✓軽い
- ✓衝撃に**強い**
- ✓かなり**丈夫**である
- ✓さびない
- ✓電機を通さない
- ✓薬品で変化しにくい
- ✓加工しやすい



合成ポリマー(高分子)構造のプラスチック
分子量が多く、架橋構造をしており、きわめて安定な構造

熱酸化や光分解はされるが、
理論上10年以上～数千年は分解されない！

●プラスチックを減らすことによって

地球温暖化対策として
地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を減らす

海洋汚染対策として
海洋生物の保全と豊かな海洋資源を守ることにつながる

Topics 2

Plastics Smart について

～大学生協も賛同しました～

● 環境省が中心となって取り組むキャンペーン

- ✓ プラスチックの問題に対して、個人・企業・団体・行政などのあらゆる主体が、それぞれの立場でできる取組を行い、**プラスチックと賢く付き合っていくことが重要**。
- ✓ 環境省では、これらの取り組みをさらに社会に広げていくため「プラスチック・スマート」キャンペーンを実施。

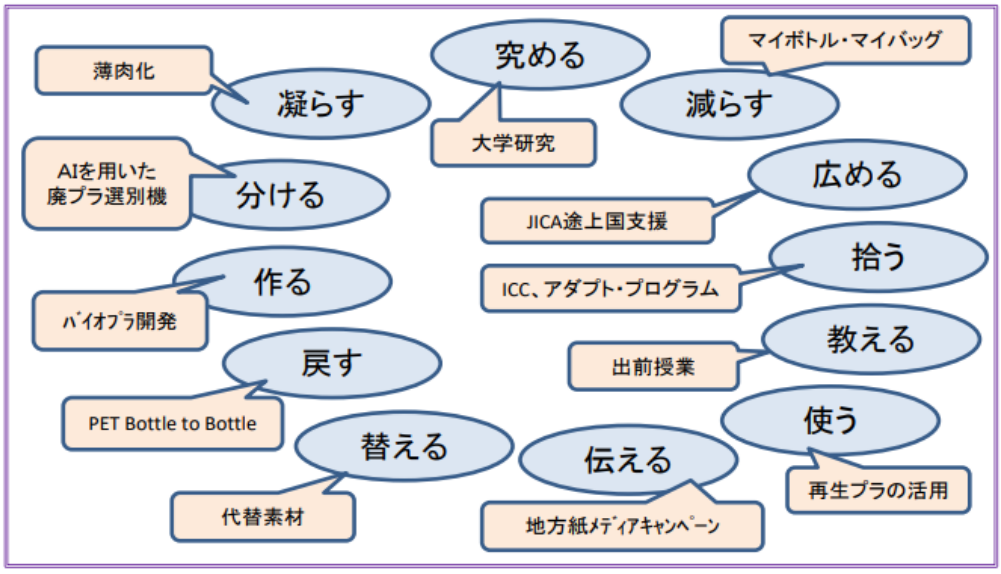
Plastics Smart

主体 ー

- 各省庁
- 市区町村、都道府県
- 業界団体
- NGO、NPO
- 企業
- 個人、消費者　　等

多様なステークホルダーとともに、

取組 ー



多様な創意工夫を通じて、プラスチック削減を実現していく！

出典：環境省「Plastics Smart」公式サイトより
http://plastics-smart.env.go.jp/

● 大学生協連もキャンペーンに賛同しました！

プラスチックスマートに関連する取り組みは、大学生協も創意工夫を凝らしながら、全国各地で展開されています！それらの取り組みを、さらに社会に発信し、地域社会や大学などのステークホルダーとともに展開できるように、本キャンペーンへ賛同しました。

◎全国大学生協連として登録するプラスチック削減に関する取り組み例

2019.06.22-23 全国環境セミナー

環境学習ツール「eco-op」

Topics 3

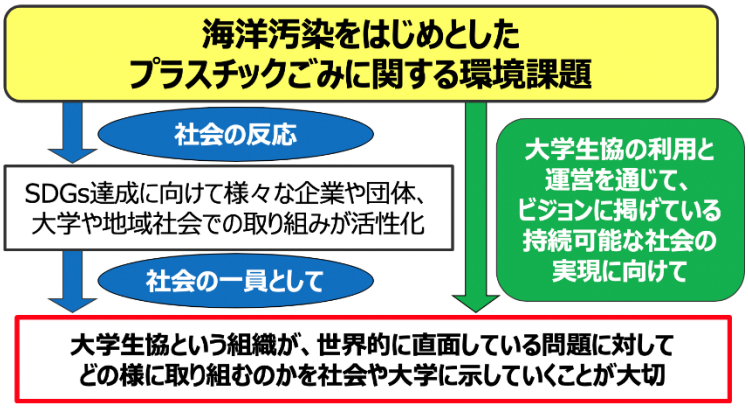
プラスチック問題に対する大学生協の取り組み方針

～５つの方針と活動課題～

● プラスチック方針（略称）とは？

現在、世界で話題になっている環境問題の中でも、海洋汚染をはじめとしたプラスチックごみに関する問題は特に重要視されています。

2015年にSDGsが採択され、持続可能な社会を目指すという動きが増えてきている中、そして、**持続可能な社会の実現をビジョンとして掲げる大学生協**が、どのようにプラスチック問題に対して取り組んでいくのかを考える視点として、この方針を定めています。



※2019年11月16日(土)全国大学生協連 理事会にて確認

● ５つの方針を深める

【プラスチック方針で掲げる５つのテーマ】

◆知り・知らせる場作り

学習会や学習資料の作成を通じて、まずは会員生協やブロックが**環境活動やプラスチック問題に関する知識を蓄え**、それらをもとに、**組合員に大学生協の環境活動の意義を広めていきます。**

こんな実践ができるかも

- ちょっきにニュースの発行など環境教育的な要素を持った取り組み
- 既に行っている環境活動の取り組む意義を説明したポスターやPOPの設置

◆プラスチックごみの排出量削減

生協店舗の利用や運営の中で発生する**プラスチックごみの排出量を削減するための取り組み**を積極的に行います。

こんな実践ができるかも

- レジ袋有料化や、ワンウェイプラスチックの置き換えなどによる利用機会の減少や、利用辞退の促進
- リサイクル弁当容器やPETボトルなどの再資源化できるものを分別回収できる環境の整備

Topics 3

プラスチック問題に対する大学生協の取り組み方針

～５つの方針と活動課題～

◆取り組みを通じた“学びと成長”

大学生協が**環境に配慮した行動のできる場**となり、その利用を通じた学びを踏まえ、大学の中だけに限らず**日常生活で持続可能な社会を意識した行動が取れる組合員**を増やしていきます。

こんな実践ができるかも

- マイバッグの取り組みや必要以上のワンウェイプラスチック製品の配布を控え、組合員が自身で選ぶ機会を作り、その行動が日常生活に浸透するような環境づくり

◆大学とのパートナーシップ

生協利用を通じたものに限らず、大学との協力関係を築き、**大学生協だけではできない取り組みの展開**を考えていきます。

こんな実践ができるかも

- 日常の大学生活の中にも環境を意識できる取り組みを大学と協力して実践し、大学の関係部署との連携の中でより発展的な取り組みを行える関係を築く

◆定期的な見直し

継続した取り組みができるように意識し、一定期間ごとに取り組みの評価（総括）や**大学生協としての姿勢の表明**を継続的に組合員に対して行います。

こんな実践ができるかも

- 毎年同じ取り組みを行うのではなく、振り返りをした上で、社会や組合員の状況に合わせて取り組む
- 組合員の入れ替わりの多い大学生協だからこそ、新学期時期などに改めて、大学生協が行っている取り組みの意義を再発信する

[より発展的な取り組みへ！！]

ただレジ袋を有料化するだけや、POPの設置だけにとどまらず、大学生協として持続可能な社会を実現するとはどういうことなのか考えながら、大学生協ならではの取り組みへと発展させていきましょう。

eco-op 2020
～環境活動の手引書～

Chapter 1 環境問題の現状を知ろう

♧このChapterのポイント

①環境問題と環境活動の現状について理解しよう。
②環境活動に取り組む意義を考えてみよう。

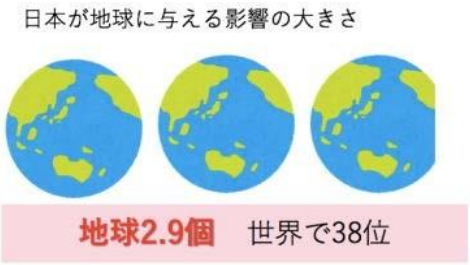
♧ページ紹介

- ✓ いまを取り巻く環境問題～人間が与える環境への影響～
- ✓ 環境活動とは～環境活動の背景とは？～
- ✓ 環境活動の意義～「なぜ」を理解する環境活動～
- ✓ 「大学生協が」環境活動に取り組む意義

いまを取り巻く環境問題
～人間が与える環境への影響～

● EF(エコロジカル・フットプリント)

エコロジカルフットプリントとは、「人間がどれほど自然環境に依存しているか」を示した指標です。木材などを生産している森林や、魚介類 などをもたらす海洋・農場・牧草地といった、現在人類が消費している物を生み出すために必要な生産性のある「土地」を、架空の面積に置き換えて指標にしています。



この数値で表すと、日本が地球に与える影響力はどれだけになると思いますか？
グローバルフットプリン ト・ネットワークの調べによると、「2.9」という計算結果が2017年度に算出されています。 つまり、**日本人の生活水準が仮に世界全体のものとなった場合、地球が2.9個必要**になるのです。世界全体を見ても、地球が1.7個なければ全員 の生活を支えることができないことになっています。
私たちの生活は、日本でも 、世界全体でも「地球が生産・吸収できる能力を超えてしまっている」のです 。ちなみに、日本は世界で38番目に多い結果となっています。
▶詳しくはコチラ：https://www.wwf.or.jp/activities/lib/lpr/20180825_lpr_2017jpn.pdf

● 資源問題

水（1日に216L消費）

右の表は普段の生活でどのくらい水を使用しているか、目安を表したものになります。数分間水を流しただけで、かなりの水の消費がされていることが わかります。日本以外に目を向けてみると、例えばケニアでは1日14Lしか使用できないというデータがあります。

用途	使い方	使用量
洗面・手洗い	1分間流しっぱなしの場合	約12L
歯みがき	30秒間流しっぱなしの場合	約6L
食器洗い	5分間流しっぱなしの場合	約60L
洗車	流しっぱなしの場合	約90L
シャワー	3分間流しっぱなしの場合	約36L

森林

日本は森林大国で、約7割の面積を占めています。 森林にはたくさんの機能が備わっており、私たちの生活に密接に関わっています。例えば、落ち葉が地表の 浸食を抑制することで土砂災害を防止したり、防風効果・ヒートアイランド現象の緩和をしたりします。 森林伐採について、正しい知識で見ていくことが大切です。海外の森林を守るために国産材を使ったり、植林をすすめていきましょう。

食品ロス

食ロスとは、売れ残りや期限切れ、食べ残しなど食べられるはずだったのに廃棄されたもののことです 日本国内の年間の食ロス量は**約632万トン**であり、 世界が必要としている食糧援助量をはるかに超える 量の食糧を捨てていることになります。対策としては 一人一人が食べ物を残さないなど、当たり前のことを 心がける必要があります。

環境活動とは

～環境活動の背景とは？～

● 環境活動とは？

環境活動とは、環境問題を解決するための活動です。
では環境問題とは何でしょうか？私たちは「人間が起こした影響のせいで、生物に悪影響を起こしてしまうもの」と考えています。

～具体的な例～
・地球温暖化　・資源枯渇　・水質汚染　・ごみ問題
・大気汚染　・土壌汚染　・干ばつ　・放射性物質　etc.

環境問題を起こしてしまうのは人間、
そしてそれを解決できるのも人間です。

● 環境セミナーとは？

「これからの社会を担う人間として主体的に行動し、持続可能な社会をつくること」を目的とした全国大学生協連主催のセミナーです。
参加者には大学生協に関わる学生や職員のみならず、環境サークルといった団体の方もいます。
大学生協は環境活動に関心をもって行動できる人間を育てる学び舎として環境活動に積極的に取り組んでいます。
環境問題を学び、環境活動を知って、実際の活動へとつなげていく志を持っています。

● 環境活動を始めるためには

環境問題を意識して、現在の状態（現状）をどうすれば改善できるか、どう変化して欲しいかを明確にすることから環境活動は始まります。
環境問題は危機的意識を持たなければならない段階まで到達しています。
問題を解決したいという想いを強く持って、それを共有し合うことで、共感の輪が広がり、大きな活動になっていきます。
身近にある環境問題から目をそらさず、まずは小さなことからでも初めて持続可能な社会をみんなで目指していきましょう。

Point
環境問題は生物に悪影響を及ぼすもの。
現状を意識して、どう改善したいか考えよう！

環境活動の意義

～「なぜ」を理解する環境活動～

● 環境活動は持続可能な社会作り

　環境活動を行うことで何が良いのかを考えたことはありますか？「環境」とは私たちが日々生活をしている身の回りの状況のことを指し、規模は身近な地域単位から世界にまで及びます。

　環境保全を怠ることで、現在の私たちの暮らしの水準を維持することは難しく生命体に悪影響を及ぼします。**環境を守ることによりこれからの私たちの暮らしをよりよいものへと向上させることが可能**です。

　現在の「当たり前」をこれからも当たり前とするために環境問題に目を向け、1人ひとりが環境活動に取り組み、私たち自身が持続可能な社会、暮らしを作り上げていくことが大切です。

● 環境活動による効果（地球温暖化）

　環境活動を行うことでどのような効果があるでしょうか。現在、最も深刻な環境問題は地球温暖化です。これは地球温暖化が種々の被害をもたらすという被害の範囲の広さ及びその原因と対策がエネルギー問題にかかる私たちのライフスタイルにも関わっているからです。

　温暖化を食い止めるのはエネルギーを無駄なく賢く使うことが大切です。それだけでなく、私たちが普段利用している自動車の使い方1つで地球温暖化を促進する二酸化炭素の排出量を防ぐことができます。環境活動を行うことによる意味をしっかりと把握しましょう。

● 意義を理解するための教育

　上記のようなことを理解するためには環境教育が必要です。現在の学習指導要領ではほとんどの課目において環境について学ぶように指導されています。正しい知識と指導力のある先生に教えてもらうことが日本や世界を変えていくことにつながりますが全ての人が簡単にできることではありません。

　環境活動を行うことによりどのような効果があるのかを私たち自身が理解をして活動をしていくためにも、みんなと環境のことについて話し、知らない人や考えていない人に環境の大切さを伝えていくことが求められています。

Point

自分たちの暮らしを自分たちで守るために、
全員で環境活動に取り組むことが大切だね！

「大学生協が」環境活動に取り組む意義

●組織が環境活動に取り組む３大メリット！

●社会的責任を果たす

組織・企業による環境破壊によって公害問題が発生した歴史があります。そのため組織・企業は、環境に配慮する義務が課されています！

例えば「京都議定書」によって日本は、2008~12年の間に6%の温室効果ガスの削減が課されました。日本の組織・企業は、この目標に協力する必要がありました！

●イメージアップ・売上向上

①を意識して環境活動に取り組むことによって、消費者から見た組織・企業は、よい印象を持たれるようになります。平たく言えば、環境活動にお金をかけることで、結果的には儲かる可能性が高い、ということです。

●コスト削減

環境に配慮した活動は、事務所やデスクでも可能です。例えば資料をデータでやり取りする、ペーパーレス化など。これは紙を使わないため、結果的には会議の際などのコストが削減できます！

●「みんな(組織)」で取り組むことが重要！

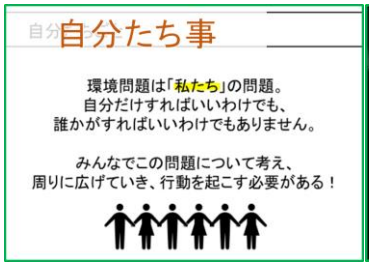
●自分たち事

詳しくは後のページで触れますが、環境問題は「私たち」の問題です！他人ごとにせず、積極的に取り組んでいきましょう。

●割れ窓理論より

「みんな（組織）」で環境活動に取り組まなければならない理由として「割れ窓理論」が挙げられます！

誰か一人が手を抜くことで、他全員の努力が水の泡になってしまうこともあるのです。



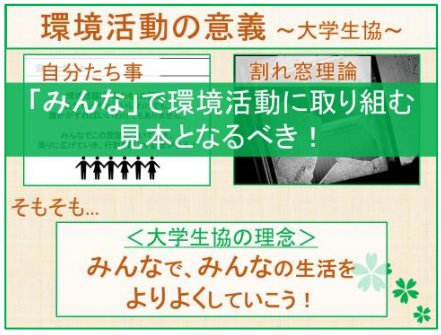
【割れ窓理論】とは　軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする理論

●大学生協が先駆者になるべき！

ここまで「環境活動は「みんな」でしたほうがいい。／するべきだ。」という理由をまとめてきました。

一旦、大学生協の基本的な目標に戻ってみると“「みんな」で、「みんな」の生活をよりよくしていこう！”というものがあります。つまり、「みんな」で取り組むべき環境活動は、大学生協の基本的な目標を達成するために取り組むべき活動だと言えるのです。

大学生協こそが、環境活動の先駆者として他の組織・企業の見本となるべきなのです！



Point なぜ「みんな」で取り組む必要があるのか。
なぜ「大学生協」が取り組むのか。
その疑問の答えが、このページにあります！

eco-op 2020
～環境活動の手引書～

Chapter 2
環境を守るために私たちができること

♧このChapterのポイント
①環境を守るための行動について考えてみよう！
②日頃からできることと効果・影響を考えてみよう！

♧ページ紹介

- ✓ 世界のみんなで目指す目標～SDGs～
- ✓ 持続可能な開発って？
- ✓ 私たちの生活の中でできること～身近なところから～
- ✓ みんなで環境活動に取り組もう
- ✓ 三重宣言～まず取り組むべき5つの宣言～
- ✓ JUON NETWORKとは

世界のみんなで目指す目標
～SDGs 持続可能な開発目標～

● 世界で目指す17の目標：SDGs（持続可能な開発目標）

SDGs（持続可能な開発目標）とは2015年9月の国連サミットで決められた すべての国が2030年までに達成を目指す17の国際目標のことです。17の目標と 169の数値目標から構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むものとして、 設定されており、日本としても積極的に取り組まれています。

● SDGsで大切にしたい考え方

"誰ひとり取り残さない" No one will be left behind
すべての人のための目標の達成をめざし、もっとも脆弱な立場の人々に焦点をあてます。

5つのP
- People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership
人間、地球、豊かさ、平和のための目標であり、統合的な解決を国際社会のパートナーシップにより実現をめざします。

出典：日本ユニセフ協会 SDGs紹介ページ
https://www.unicef.or.jp/sdgs/concept.html

Point
環境問題だけではなく、世界すべての国に共通する課題の統合的な解決を目指すのがSDGs！

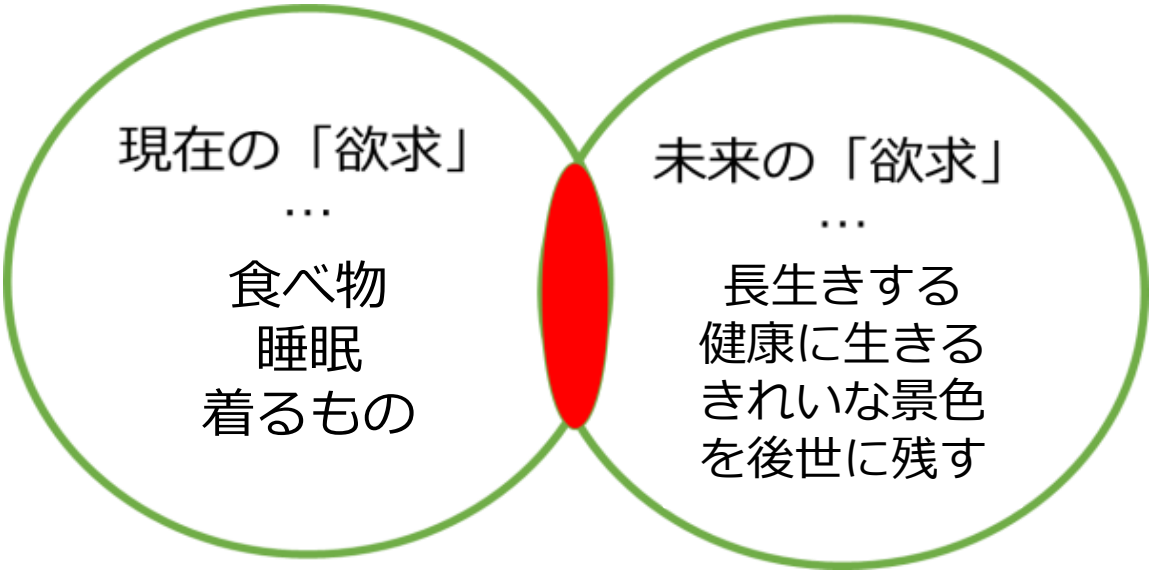
持続可能な開発って？
～SDGs 持続可能な開発目標～

● **「持続可能な開発」の意味**

「将来世代のニーズを損なうことなく
現在の世代のニーズを満たすこと」

この言葉が生まれた背景を説明すると、1972年の国連人間環境会議の中で環境問題への取り組みが本格化したのをキッカケに、世界中で環境問題への議論が行われてきました。そして、1987年に「Our Common Future」と呼ばれる報告書がまとめられ、上記の持続可能な開発の概念が示されました。

● **上の言葉を図解すると、下の図の共通部分を満たすような開発をしましょうと言うことになります。**



univ. CO-OP × SDGs
全国大学生協連×SDGs

大学生協では、SDGsの取り組みを推進しています。詳細は、全国大学生協連ホームページ「SDGs特設サイト」をぜひご覧ください。
https://www.univcoop.or.jp/sdgs/index.html

Point
持続可能とは、
現在と将来の両方を考えること

私たちの生活の中でできること
～身近なことからはじめよう～

● 環境問題って身近

「世界規模の環境問題って身近に感じられないし、日常生活の中で意識なんかしない」と、考えていませんか？でも実は、あなたを取り巻く環境も関係しているんです！例えば、カップ麺の残汁をトイレや流しにそのまま流してしまうと、水道管は傷むし水質汚染にも繋がります。誰しもが経験のある、もしくは日常の中で安易に考え得る行為も、環境問題にかかわっているのです。そう考えると、あなたにも身近な話に感じませんか？

https://www.wwf.or.jp/aboutwwf/earth/

● 日常生活の中でできる環境に配慮した行動

◎水は使ったら止める
→水道事業に必要なエネルギー源の大部分を電気エネルギーが賄っている
→節水が電気エネルギーや電気を作るエネルギーの節約にもなる！

◎洗剤は適量を使う
→過剰使用による環境への負荷を軽減できる
→すすぎに使う水の無駄遣いも防げる！

◎ごみはきちんと分別
→正しく分けて出せばリサイクルしやすくなり、量も減る
→分ければ資源、混ぜればゴミ

◎トイレットペーパーを使いすぎない
→トイレットペーパーは再生できない使い捨ての紙
→無駄遣いを控えるしかない！

◎電気はこまめに消す
→発電電力量が最も多い火力発電は、大量の二酸化炭素を排出している
→節電が二酸化炭素の無駄な排出を抑える！

◎無駄にレジ袋はもらわない
→国民一人当たり300枚使用している
→一人ひとりが気を付けることで、原料や処分費の削減につながる！

◎リ・リパックはリサイクル
→トレーを洗わずにリサイクルし、ゴミになるのははがしたフィルムだけ、さらに再生原料を利用している
→水資源や天然資源を守り、ゴミの削減にもつながっている！

● 小さなことの積み重ね

個人でできることは日常生活の中でもたくさんある！そのことがわかってもらえたでしょうか？一人ひとりの力は微々たるものですが、より多くの人がコツコツ積み重ねていくことが大切です！

Point
環境に配慮した行動を一人ひとりが意識しよう！

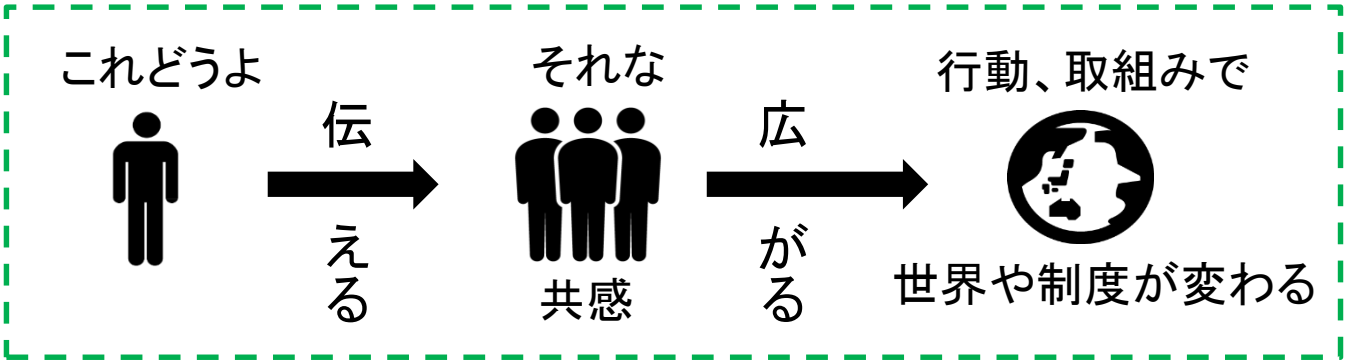
みんなで環境活動に取り組もう
～みんなで環境活動やるで～

● 環境問題はみんなの問題

環境問題に対する取り組みは自分だけすればいいわけでも、誰かがすればいいわけでもありません。環境問題は「私たち」の問題です。今の環境問題や現状について周りに伝え、みんなで考え、共感の輪を広げていくことが大切です。

みんな出来ることは違うけれど、「良い環境にしたい」という共通の想いがあります。共通の目的のために、協力して行動することで大きな力になり、問題を解決することができますよね。

まず今あなたが持っている環境問題に対する興味や問題意識を周りの人に広げます。それに共感してくれた人がまた伝え共感を生んでいき、やがて大きな力や行動として表れ、世界や制度を変えていくことができるのです。



● 消費者として賢い選択をしよう

大きな環境活動を一個人で行うは難しい…。でも、環境問題に取り組む企業はたくさんあります。消費者という立場で賢い選択をすることができます！例えばストローを置いていないファミレスで食事をしたり、エコバックをもってレジ袋を有料化しているスーパーで買い物をしたり、エコマークがついている文房具を買ったりなどなど。

買う前に少し考えてみてください。その消費行動で環境問題に協力することが出来ます。賢い消費者が増えれば、社会が変わっていきます！

● 一人ひとりの行動が集まれば大きな力

前のページで考えたように、生活の中で一人ひとりが出来ることを実行していくとともに、エシカル（倫理的）な消費行動を通して、世界が抱えている環境問題を解決に導く一端を担っていきましょう。そしてこのような考え方や問題意識を、家族や友達、大学生協の組合員のみんなに広げていくことができれば、より大きな力となり持続可能な社会への実現につながっていきます。

みんなでみんなの地球と未来を守っていきましょう！

Point

みんなでやれば大きな力に！

三重宣言
～まず取り組むべき5つの宣言～

●「三重宣言」とは…

2019年6月22日～23日に、三重大学にて開催された「全国環境セミナー2019」において、参加者全員による「三重宣言」が行われました。

2日間のセミナーでの学びを踏まえて、各会員生協に戻ってできること・個々人ができることを5項目に整理した宣言文を、閉会式で読み上げました。**環境活動に取り組む上で、まず意識したい5項目になっています！**ぜひ実践していきましょう！

三重宣言

「全国環境セミナー2019」を三重大学で開催するにあたり、四日市公害の教訓に学び、地球温暖化などの環境問題への解決策として、持続可能な開発目標（SDGs）に積極的に取り組むため、今ここに集まる私たちの実践を形とした「三重宣言」を行います。

今社会では、地球温暖化など地球規模の環境問題に焦点が当てられ、持続可能な開発目標(SDGs)に積極的に取り組んでいくことが求められています。全国環境セミナーに参加した私たちは、環境活動に取り組む意義を探り、継続した活動を行うため、仲間とともに、いまできることを取り組む大切さを学びました。

そこで私たちは、持続可能な社会の実現を目指し、日常的に社会に目を向け、人と人との“協同”を通じて、“考動”していくことをここに宣言します。

三重宣言①<資源の節減>

一人ひとりが、日常生活の中で、こまめな消灯やエコバッグの活用などを心がけることによって、資源の無駄な消費を削減することを目指します。

三重宣言②<倫理的消費>

自分の消費行動が環境に対して影響することを理解し、エコ商品・リサイクル商品を選択し、倫理的な消費行動に努めます。

三重宣言③<地域社会への参加>

自分の住むまちを知り、住み続けられるまちづくりに向け、ゴミの分別や清掃活動など、地域や社会が取り組む環境活動へ積極的に参加します。

三重宣言④<継続的な環境学習>

公害問題など過去の教訓を生かし、ニュースや調べ学習を通じて現在の課題に向き合い、持続可能な未来社会を想像しながら学び続けます。

三重宣言⑤<コミュニティの拡大>

直接的な対話やSNSを通じたコミュニケーションで、ともに環境活動に取り組んでいける仲間を増やします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2019年6月23日
全国大学生協連・JUON NETWORK 共催
全国環境セミナー2019 参加者一同

JUON NETWORKについて
～どのような組織なの??～

● JUON NETWORKとは

都市と農山漁村の人々をネットワークで結ぶことにより、環境の保全改良、地方文化の発展と 普及、過疎過密の問題の解決に取り組むことを目的として、1998年大学生協の呼びかけによって設立された認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）です。都市と農山漁村の循環と世代を超えた人々のつながりを取り戻す活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指しています。

● 大学生協との関係性

大学生協が行った阪神淡路大震災での支援活動がキッカケでした。震災の時、多くの学生がボランティアとして駆けつけましたが、学生が「ボランティア活動や社会活動をしたいけれど『場』と『キッカケ』がない」という想いを口にしました。そこで、大学生協は、学生が活動できる場づくりと、都市と過疎地域とのつながりを作り、「まち」と「むら」をつなぐ架け橋になるという想いから、大学生協の呼びかけのもと、1998年に設立されました。

● JUONという名前の由来

JUONは漢字で書くと、樹恩となります。この言葉は最後の棟梁と称された宮大工の故 西岡常一さんの著書に出てくる樹恩という言葉が取られました。 また、都市と農山漁村の人々をネットワークで結んでいくとの意思を込めて、「JUON（樹恩） NETWORK」と命名されました。

Point
「まち」と「むら」を結び、学生が社会活動をする場を作っているのがJUON

JUON NETWORKについて
～環境を守るための取り組みについて～

国内・外の森林の暮らしを、体験を通して学べる「森林の楽校」

森林は地球温暖化防止、水源涵養、災害防止などの役割があります。ところが今、手入れがされず日本の森林は荒れています。「森林の楽校（もりのがっこう）」では、森づくり体験・自然散策や地元の方々との交流 などを通じて、森林・環境問題について学ぶことができます。ボランティア 活動のきっかけとして、参加してみませんか？（2018年度は秋田、福島、 群馬2、埼玉、東京、新潟、富山、長野、岐阜、京都、兵庫、徳島、香川、 高知、佐賀＆長崎の全国16ヶ所で開催）

都市と農山漁村を結ぶ架け橋 国産間伐材製「樹恩割り箸」

日本の森林を守るために間伐材・国産材を使うこと、障害者の仕事づくりに貢献すること、食堂の排水を減らすこと、この３つの目的をもって「樹恩割り箸」は生まれました。全国の知的障害者施設で製造され、70以上の大学生協食堂などで利用されています。

つくる人の顔が見え安全な「樹恩割り箸」は、まさに都市と山村を結ぶ「かけはし」となっています。

【連絡先】
認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22 大学生協杉並会館内 TEL：03-5307-1102 FAX：03-5307-1091
E-mail：juon-office@univcoop.or.jp
URL：http://juon.or.jp/
Twitter： http://twitter.com/JUON98
Facebook：http://www.facebook.com/juonnetwork

eco-op 2020
～環境活動の手引書～

Chapter 3
大学生協の活動と実践事例から学ぶ

♧このChapterのポイント
①大学生協で行われる環境活動の全貌を知ろう！
②全国の実践事例から活動のヒントを見つけよう！

♧ページ紹介

- ✓ 大学生協の活動～活動の種類と環境への影響～
- ✓ 大学生協の活動～大学生協ならではの意義～
- ✓ 全国の環境活動～学生委員会実態調査より～
- ✓ 活動実践事例紹介ページ

大学生協の活動
～活動の種類と環境への影響～

前頁ではさまざまな環境活動を紹介してきました。では、その活動をすることで環境にどんな影響があるのでしょうか？そこまで考えて活動できることが理想といえます。

●リサイクル容器などの回収活動

①プラスチック容器の回収による資源のリサイクル
リサイクルをすることで新たなプラスチック容器の生成を減らすことができます。

②水の使用削減
皿を使用する場合、水洗いをしますが、リ･リパックでは必要ないので、大量の水を節約できます。

③二酸化炭素排出量の削減
焼却せずに再利用をするので、二酸化炭素の排出も削減できます。

●清掃活動

①水や土壌汚染の抑制
捨てられたごみが地下水や土壌を汚してしまうのを防ぎます。

②ごみを捨てない人を増やす
清掃活動に参加した人が、捨てられたごみの量を受け、ごみを減らすなど生活に変化が起きるかもしれません。

●生協店舗でのレジ袋削減

①プラスチックの使用量減少、コストの削減
レジ袋を使う人が減れば、その分使用量も減り、生産や廃棄にかかるコストを削減できます。

③無駄な買い物の減少
買い物に歯止めがかかり、無駄な消費を防ぐことができます。

④日常的にレジ袋の使用を控える意識
エコバックを持つようになった人は、生協店舗以外のお店でもレジ袋を使わなくなるでしょう。

ここで挙げたものはあくまでも一例です！！
eco-opを読んでいるみなさんも自分たち、自大学での影響を考えてみましょう！！

Point
自分たちが行う(行いたい)活動が環境に**どんな影響を与えている**のかを考えてみよう！！

大学生協の活動
～大学生協ならではの意義～

環境活動の**意義**を考えることで、活動へのやりがいを感じて、周囲の人も一緒に取り組みやすくなります。ここでは大学生協ならではの意義を載せています。活動に意義を感じる部分は人それぞれですが、みなさんも自分なりの環境活動に取り組む意義を考えてみてはどうでしょうか？

● 大学生協の4つの使命から考える

大学生協は「協同・協力・自立・参加」の4つのキーワードで私たちの存在意義、使命を定めています。その中でも**「参加」**は「魅力ある事業として組合員の参加を活発にし、協同体験を広めて人と地球にやさしい持続可能な社会を実現する」ことを目指しています。
大学生協が大事にしていることは**「大学生協の活動を通して、組合員が参加する場と機会を作り、人とやさしい社会をつくること」**です。そのために大学生協は環境活動に取り組んでいます。
また、生協の目指すよりよい大学生活の実現には、環境も無関係ではなく、よりよい大学生活のために環境活動をすることに意義はあるのではないでしょうか？

● 社会で求められる環境配慮から考える

事業が環境に配慮した経営を行うことで事業体自体による環境負荷を削減できます。大学生協も環境活動を行う一つの組織です。企業でも、自分たちの事業が成り立つのは地球の環境によるおかげであることを認識した上で、**地球をより健全な状態で次世代に引き継ぐことを社会的責務と捉え、持続可能な社会の現実を目指して行動しています。**
大学生協も社会に生きる一つの組織として、学生委員会などの組織委員会や事業面での環境活動を実践しています。

● 環境教育活動として考える

環境教育活動とは、環境問題解決のための実践や事例を通し、普段の行動の中から環境に配慮した行動がとれるように環境の意識を高めるための活動です。
日頃の行動の中で意識できるようになることで大学生協の外に出たときにも実践できるようになります。その**日頃の行動の癖をつけるところが大学であり、大学生協**です。**社会に出る直前の世代である大学生**に大学生協の利用を通して、自分たちが生きる未来の社会をよりよいものにして行くための行動を日常的にとれるようになってもらうことが大学生協の環境教育活動の一つです。

学生時代
リ・リパックの回収活動を通して、「**一人の行動でも環境に貢献できる**」と気づく

社会人時代
一人の行動が力になることを知っているので、**レジ袋を受け取らない**ことに決めている。

Point

「自分が環境活動に取り組む意義」
を考えてみませんか？

全国の環境活動
～学生委員会実態調査から～

● 全国の環境活動の実態

2019GI実態調査の回答数は**233**（学生委員会数）
その中で環境活動を行っている学生委員会は**115**と約半数

北海道	29.4%	北陸	75.0%
東北	64.0%	京滋・奈良	68.4%
東京	25.3%	大兵和	60.0%
東海	45.8%	中国・四国	75.0%
		九州	80.0%

←　（その地域の取り組み会員数）/（地域内会員数）

地域により会員生協数に大きな差があるため、一概には言えないが、**西側の地域ほど環境に関する取り組みを行っている**ところが多い傾向がみられる。

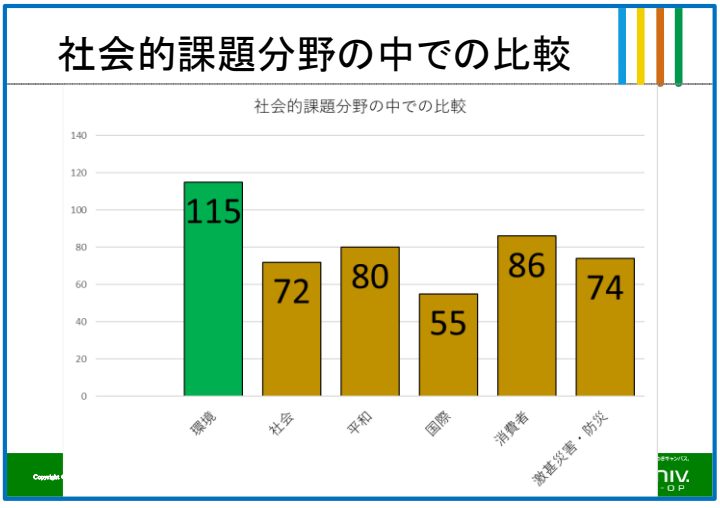
● 環境活動の特徴

環境活動の特徴としては以下の２点

- **社会的課題の中で最も取り組まれている**
- **特定の活動に偏っている**

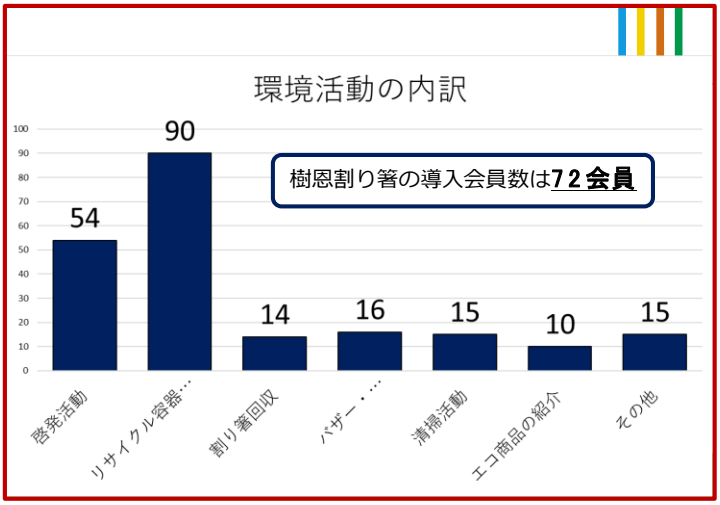
他の社会的課題との取り組み数比較→

緑色のグラフが環境に関する取り組み
他のものよりも比較的取り組みやすく、活動の手段も幅広いことが要因になっている可能性がある。



環境活動の内訳→

リサイクル容器の回収が最も多く取り組まれている。リサイクル容器などのように元々ツールがある場合は、これまでの継続としてよく取り組まれているように思われる。
一方で啓発活動とリサイクル容器の回収活動が普及し、他の取り組みは大きくは増えていないという傾向も見られる。



【まとめ】
環境活動は多くの会員生協で取り組まれている一方、環境活動＝回収活動という傾向も見られる。SDGsの視点での評価も含めて、活動の視野を広くすることで、取り組みの種類が増えるだけでなく、取り組みの意義の再確認へと繋がるかもしれない。

実践事例紹介ページ

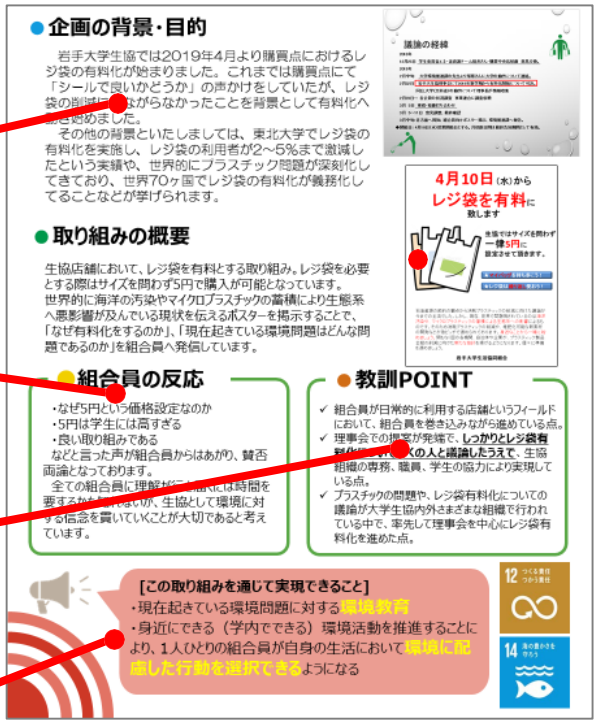
● 事例紹介ページの見方

企画を実施することになった背景や、企画の目的に目を向けてみましょう。自分の大学と近い状況はあるかな??

企画を通じて、組合員がどんな反応をしていたか注目してみましょう。自大学で実践する場合も組合員の様子は注目！

取り組みの教訓ポイント(どの大学生協でも活用できるポイント)を各ページの編集担当者が整理しています！

取り組みを通じて実現できたことは何か注目してみましょう！自大学での活動を考えるヒントがあります♪



手法面だけでなく、結果までを意識して取り組みを見よう！

● 実践事例一覧

- 岩手大学生協　「レジ袋の有料化」
- 宮城教育大学生協　「地域清掃活動」
- 東京農業大学生協(厚木キャンパス)　「環境週間」
- 愛知県公立大学生協(愛知県立大)　「ecoop(エコープ)」
- 富山大学生協　「グリストラップ清掃と排水問題」
- 奈良女子大学生協　「コンタクト空ケース回収の取り組み」
- 京都府立医科・府立大学生協　「リ・リパックで国際貢献」
- 大阪大学生協　「大学祭における環境活動」
- 神戸大学生協　「PRP 古紙回収の取り組み」
- 島根大学生協　「Re-Use市」
- 広島修道大学生協　「エコバッグチャレンジ」
- 愛媛大学生協　「キャンドルナイト」
- 西南学院大学生協　「新入生歓迎会(リ・リパック)」
- 立命館生協(立命館アジア太平洋大学)　「ECO BOX(エコボくん)」

岩手大学（東北BK）

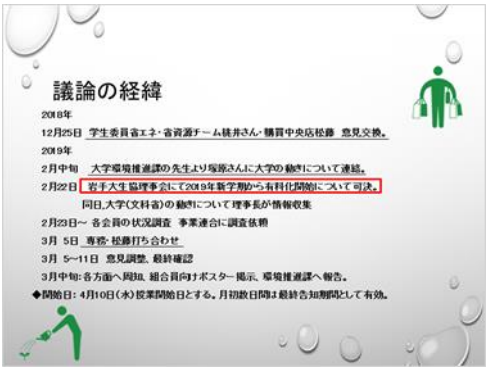
レジ袋の有料化

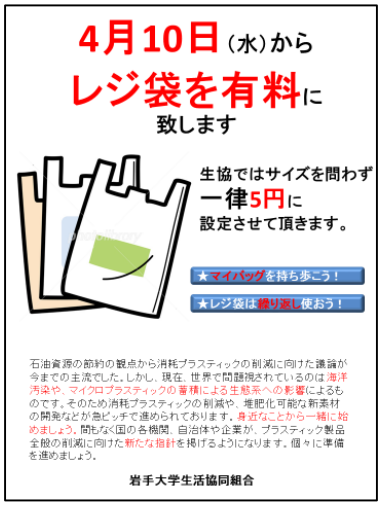
～理事会での議論を経て、有料化へ！～

● 企画の背景・目的

岩手大学生協では2019年4月より購買店におけるレジ袋の有料化が始まりました。これまでは購買店にて「シールで良いかどうか」の声かけをしていたが、レジ袋の削減につながらなかったことを背景として有料化へ動き始めました。

その他の背景としては、東北大学でレジ袋の有料化を実施し、レジ袋の利用者が2～5%まで激減したという実績や、世界的にプラスチック問題が深刻化してきており、世界70ヶ国でレジ袋の有料化が義務化してることなどが挙げられます。





● 取り組みの概要

生協店舗において、レジ袋を有料とする取り組み。レジ袋を必要とする際はサイズを問わず5円で購入が可能となっています。
世界的に海洋の汚染やマイクロプラスチックの蓄積により生態系へ悪影響が及んでいる現状を伝えるポスターを掲示することで、「なぜ有料化をするのか」、「現在起きている環境問題はどんな問題であるのか」を組合員へ発信しています。

● 組合員の反応

・なぜ5円という価格設定なのか
・5円は学生には高すぎる
・良い取り組みである
などと言った声が組合員からはあがり、賛否両論となっています。

全ての組合員に理解が行き届くには時間を要するかもしれませんが、生協として環境に対する信念を貫いていくことが大切であると考えています。

● 教訓POINT

- ✓ 組合員が日常的に利用する店舗というフィールドにおいて、組合員を巻き込みながら進めている点。
- ✓ 理事会での提案が発端で、**しっかりとレジ袋有料化について多くの人と議論したうえで**、生協組織の専務、職員、学生の協力により実現している点。
- ✓ プラスチックの問題や、レジ袋有料化についての議論が大学生協内外さまざまな組織で行われている中で、率先して理事会を中心にレジ袋有料化を進めた点。

[この取り組みを通じて実現できること]

・現在起きている環境問題に対する**環境教育**
・身近にできる（学内でできる）環境活動を推進することにより、1人ひとりの組合員が自身の生活において**環境に配慮した行動を選択できる**ようになる

12 つくる責任 つかう責任

14 海の豊かさを守ろう

宮城教育大学（東北BK）

地域清掃活動

～地域と連携して環境活動にチャレンジ～

● 企画の背景・目的

これまでは学内の清掃活動を定期的に行っておりましたが、組合員の参加率も良くはなくマンネリ化していました。そこで、環境部局ならびに学生委員会としてより意義の見出せる活動を展開していくことを目的に外部との連携・地域との連携に目を向けました。

今回は仙台市で行われているイルミネーションイベントに参加をし、清掃活動を行いました。対象は学生委員会ですが全員に参加をしてもらうため、イベントと平行して行うという部分に気を配りました。

● 取り組みの概要

イベントボランティアの内容は、イベントのリーフレット配布、ヒカリングの販売、清掃活動となっていました。

代表の方との相談をし、学生委員会の参加の目的背景を伝えることで、今回は清掃活動をメインに取り組ませてもらう運びとなりました。

参加対象を学生委員会に絞ったのは、今回は初めての試みということで、まずは取り組みの意義を委員が見出す、考えるためです。今後、より多くの人がかかわることのできる取り組みへとつながっていくことが期待されます。

● 組合員の反応

・今回は初回ということで、学生委員以外の組合員を参加の対象にはいたしませんでした。次回以降の参加を検討中です。

・参加した学生委員会の声としては、「ゴミ問題や、食品ロス問題について考える機会になった」という声がありました。ただ、清掃活動以外にも携わったため環境分野について深く考えることができなかったという意見もありました。

● 教訓POINT

・現在行っている取り組みをチームで見つめ直し、より生協学生委員会らしい取り組みをができるように行動している点

・環境活動を通じた地域の活性化にも目を向けている点

・体験型で学生委員会が自分たちの取り組みについて考える機会を作っている点

[この取り組みを通じて実現できること]

・**環境活動を通じたよりクリーンなまちづくり**

・より多くの若者が**環境問題に目を向けることができる機会作り**

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

東京農業大学厚木キャンパス（東京BK）

環境週間

～組合員の環境に対する意識向上のための工夫～

●企画の背景・目的

環境セミナーに参加した学生が、農大の組合員がリ・リパックをそのままゴミ箱へ捨てている状況を改善したいと考え、「組合員に環境に対する意識をもってもらいよりよい生活につなげる」「リ・リパックの認知を広める」「リ・リパック回収箱を作り、実際に使用してもらう」という目的でこの取り組みを行うこととなりました。

「企画開催期間中のリ・リパックの平均回収率５５％」「後日調査（２週間）での平均回収率４０％」という目標も定めました。

●取り組みの概要

リ・リパック回収箱の設置や、ガラポンを用いてリ・リパック回収の認知度・環境への意識を上げました。さらに、購買部のスタッフ協力のもと、レジ袋の使用を控える呼びかけも行いました。

朝と夕方にフタの個数を数え、その日回収できたリ・リパックの個数と照らし合わせてその日の回収率を出し、目に見える形にしていました。

取り組みを行っている期間だけではなく、取り組みの終了後も継続してリ・リパックの回収を行っていけるように考えることもできていました。

●組合員の反応

Twitterで流したリ・リパックのフィルムのはがし方の動画がわかりやすいと好評でした。取り組みの後の回収数は1日あたり10個前後であまり根付いているとは言えませんが、回収箱を他の位置に設置してほしいという組合員の声が聞けたので、回収箱の設置場所を増設する方針になっています！

●教訓POINT

◎リ・リパックの回収率を上げるだけではなく、それを通して組合員の環境に対する意識の向上まで考えることができていた！

◎購買部のスタッフと協力してレジ袋の使用を控える呼びかけを行うことで、組合員が環境に配慮した行動をとるきっかけづくりを行うことができていた！

[この取り組みを通じて実現できること]

リ・リパックの回収や不要なレジ袋をもらわないことによって、資源の無駄遣いを削減することができます。限りある資源を大切にすることで、地球環境を将来に残す、環境保全にも繋がります。

12 つくる責任 つかう責任

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

愛知県立大学（東海BK）

ecoop（エコープ）

～周りの環境に配慮した大学生活を～

●企画の背景・目的

・背景：机の上の消しかすやごみ分別の不徹底が気にかかる
→**一人ひとりが(自然や学内の)環境を意識すれば皆が快適に過ごせるようになる**のでは？

・目的：学内の清潔を目指す、周りに配慮した行動を心がける
→**身近なところに関心を持ってもらう**ため、文房具に焦点を当て多くの組合員が利用する購買で実施

●取り組みの概要

・特集コーナーの設置
再生紙利用、エコマーク、グリーン購入法等に認定された購買の文具を取り上げ、購買の目立つ場所にコーナーを設置しました。「ecoop」の文字を強調して組合員の印象に残るよう工夫し、再生紙利用、エコマーク、グリーン購入法に関する三角柱も作成しました。プライスカードには、その商品が例えば再生紙利用なのか、エコマーク認定商品なのかということも示しました。

・COOP文具のPOP掲示
再生紙利用、エコマーク認定商品5つのPOPを作成しました。

●組合員の反応

★特集コーナーの前で足を止めてくれる組合員や、ピックアップした商品を買ってくれる組合員がいた

★多くのエコ商品がコーナー設置前より売り上げが120～600%に増加していたので、一定の効果はあった

●教訓POINT

★学生委員会全体にも呼び掛け、期間中は皆で**組合員の反応**を見て、報告し合えるとよりよい

★キャンパスペイのポイントアップや割引等のキャンペーンと組み合わせれば、より組合員の興味をひけるのではないか

[この取り組みを通じて実現できること]
店舗という**組合員にとって一番身近な場所**で活動できている点がいいですね！個人でできることは限られていますが、**消費行動をきっかけ**に環境分野に目を向けられる組合員が増えそうです！

4 質の高い教育をみんなに

12 つくる責任 つかう責任

富山大学（関西北陸BK）

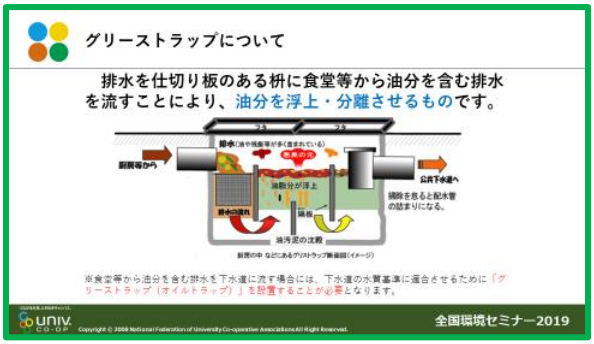
グリストラップ清掃と排水問題

～理解を広げると、協力が広がる～

●企画の背景・目的

排水における油分が基準値を超過してしまったことで、大学側から「営業中止」などの厳しい意見が出た。可能な限り、排水における油分を除去するため、様々な取り組みを行った。

しかし、大学や組合員にも原因があり、大学生協だけの努力では問題解決を図れないことが判明。大学側と協力し、組合員にも協力を呼び掛けることにした。



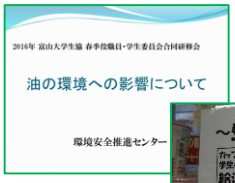
↑グリストラップ（清掃の徹底を行った）

●取り組みの概要

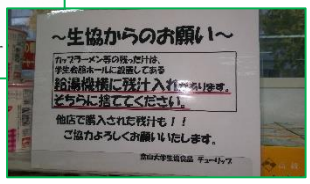
【生協として取り組んだこと】

生協では、組合員に対し「なぜ組合員に不便（油分の多いドレッシングの利用中止、敷き紙など）を強いるのか」ということを分かりやすくポスターなどによって呼びかけた。

大学側にも協力を呼びかけた。



←大学と協力した学習会（水質保全センター）



麺の残汁の回収。その掲示→

↑学生委員会がポスター作成

【大学として取り組んだこと】

・グリストラップの増設。

・定期検査の強化（大学は有害物質には敏感だったが、生活雑排水には認識が薄かった）

・研究室等での、カップラーメンの残汁の扱いなどの呼びかけ

←主菜皿に吸油シート（敷き紙）

吸油シート（敷き紙）の回収→

●組合員の反応

ポスターなどの呼びかけと、継続的な説明によって主菜皿の吸油シートやカップラーメンの残汁については、回収場所にしっかりと持ってきてくれるようになった。

また、「油分の多いドレッシング（ごまドレッシングなど）を置いてほしい」などの意見が来ることはあるが、油分や環境への配慮について説明することで、納得してくれることが多い。

●活かせるPOINT

●大学一丸で対策に取り組んだ

大学や組合員に対して、継続的に真摯に説明し、協力を呼び掛けることによって、大学一丸となって排水の問題に対して取り組むことができている！

説明によって理解を広げていくことで協力が広がった。それによって、大学生協だけではできないこともできるようになった！

[この取り組みを通じて実現できること]

環境活動は、「ひとり」でできることから、「みんな」で協力しないとできないこともあります。この取り組みでは、「みんな」にあたる組織同士が協力することで、活動の幅が広がっています。「みんな」で環境に気を配ることについて考えています！

奈良女子大学（関西北陸BK）

コンタクト空ケース回収取り組み

～企業のプロジェクトと協力～

●企画の背景・目的

背景：学生委員のアルバイト先であるアイシティで回収ボックスが設置されており、毎日お客様がコンタクトレンズの空ケースを持ってきてくれます。それを見ていてこのecoプロジェクトに興味を持ち、大学にも回収ボックスを設置できないかと考えました。

目的：普段何気なく捨てているコンタクトレンズの空ケースを集めるだけで簡単に環境保全に協力できることを知ってもらうとともに、他の環境活動にも興味を持ってもらえることを目指しました。

●取り組みの概要

大学内のごみ箱の横にコンタクトレンズ空ケースの回収ボックスを設置しています。この場所は食堂の入り口にあり、多くの人が通る場所です。回収後はアイシティに持っていき、空ケースは再資源化され様々なプラスチック製品になります。また、リサイクルの収益はアイバンク協会に全額寄付されます。

春までに1000個回収することを目標に、ツイッターで回収の呼びかけを行っています。

●組合員の反応

春までに1000個回収を目標にしていましたが、なんとすでに約2500個の空ケースが回収されていました！学生だけではなく生協職員の方々も空ケースを集めて下さっているようです。簡単に環境活動に参加できることが「嬉しい」と言っている組合員が多くいるので、回収ボックスを設置して本当に良かったです！

●教訓POINT

・企業の取り組みである「アイシティecoプロジェクト」と協力した
・普段何気なく捨てていた空ケースをリサイクルすることが環境保全につながることを意識づけることが出来ました。そうすることで大学を卒業後も、日常生活の中で環境について考える視点を組合員に持ってもらうことに繋がりますね♪

[この取り組みを通じて実現できること]

空ケースは再資源化されリサイクル商品に生まれ変わるので資源節減になるとともに、廃プラによる海洋汚染防止にもつながります。
また環境の視点を持つ人を増やすことが出来ました。
このプロジェクトは障がい者の自立支援にも貢献しています。詳しくはアイシティのサイトをチェックしてみてください→

京都府立医科・府立大学（関西北陸BK）

リ・リパックで国際貢献

～TFT団体と協力し想いを実現～

● 企画の背景・目的

背景：社会的課題に関する企画に取り組みたくてもなかなか取り組めずにいたが、学内の認知度は高い学生委員会と、国際貢献しているがそれをあまり認知してもらえてなかった「TFTKPU」という団体。両組織が協力すれば、互いの長所を生かしつつ互いの悩みを解決できる企画が行えるのではないかと考え、この企画が発案・実行されました。

目的：TFTの認知度向上とともに、食の不均等について考えてもらうきっかけをつくる。またリ・リパック回収率UPを目指す。

● 取り組みの概要

同大学で活動している「TFTKPU」という団体にリ・リパック容器のヘルシーお弁当メニューを考案してもらい、1週間購買で販売しました。1食お買い上げ毎に20円が発展途上国に寄付される仕組みになっています。

1週間、1つ400円 で1日限定20食販売し、お昼に2人程購買前に立ち、プルコギ丼弁当の宣伝をしました。さらに導入期間中は、両組織のTwitterで「リ・リパック」についてと回収方法を簡単に説明した動画付きツイートを投稿し、組合員に呼びかけました。

▲Twitterに投稿した動画

● 組合員の反応

毎日完売するなど組合員に大好評の企画で、１週間で100出食し、合計2000円寄付することができました。
(発展途上国において20円は１食分の給食費)
同時にリ・リパック回収率が1%以下から9.2%に上がり、リ・リパックに対する組合員の関心がUPしました！

● 教訓POINT

・「社会的課題を解決したい」という想い実現に向けて、学内の他団体と協力することによって、自分たちだけではできなかったことができた！
・お店を使ったことにより、多くの組合員にとって気軽に環境活動を行える場をつくった。また環境活動に取り組んでいける仲間を増やした。

[この取り組みを通じて実現できること]

この企画をきっかけにリ・リパックの認知度や回収率が上がると、資源の節減・廃プラによる海洋汚染防止につながります。また他団体と協力したことにより、組合員に食や貧困の問題にも考えてもらうことができました。
環境問題は世界の様々な問題とつながっています。多角的に考え、今自分ができることから実践していきましょう！

大阪大学（関西北陸BK）

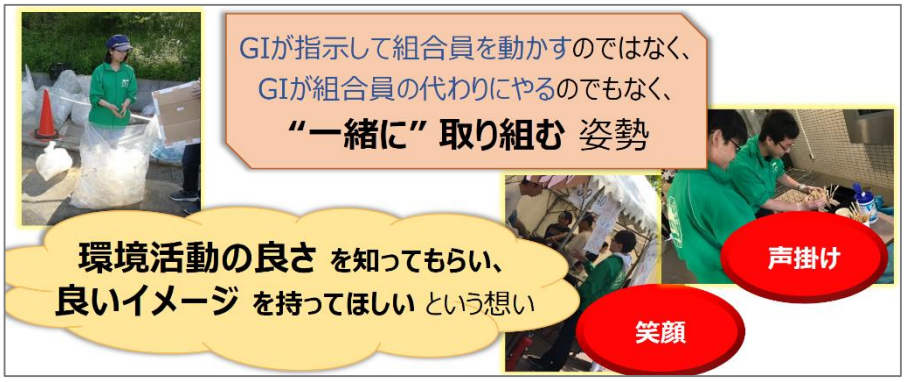
大学祭における環境活動

～多くの組合員とともに、環境活動の楽しさを実感～

● 企画の背景・目的

大阪大学生協では、年2回開催される大学祭で、様々な環境活動を展開しています。

環境に配慮した大学祭の実現を目指す大学や大学祭実行委員会の想いを踏まえて、学生委員と組合員が一緒に活動に取り組めるように工夫しています。



● 取り組みの概要

①環境にやさしい容器の提供

大学祭実行委員会と連携し、模擬店を出店する団体に、リ・リパックや繰り返し洗えるリターナブル皿、樹恩割り箸の提供を行っています。

②分別活動の推進と組合員への周知

「ごみナビゲーション」を設置し、大学祭で出るごみを参加者自身が10種類以上の分類で分別できるように工夫しています。また、学生委員だけが取り組むのではなく、模擬店を出店した団体からナビゲーターを出してもらい、組合員同士で環境意識を向上させています。

③ゴミ集積所での分別状況チェックと清掃

模擬店の出店団体が出したごみの分別状況を、持参した模擬店の担当者とともにチェックします。場合によっては一緒に分別を行います。

● 組合員の反応

「分別の仕方について理解ができた。」
「日頃から分別することを心掛けたい。」
「大学生協が分別や環境活動に取り組んでいることを、大学祭における模擬店の出店によって知ることができた。今後に生かしたい。」
など、組合員同士が分別や環境配慮の重要性を学び合い・伝え合う様子が見られました。

● 教訓POINT

- ✓ 大学祭実行委員など、大学内の様々な学生団体や大学とともに環境活動を進める。
- ✓ 学生委員だけが取り組むのではなく、環境活動において大切にしたいことを伝えた上で、一緒に協力して取り組む仲間を増やす。
- ✓ 一時的な分別活動・環境配慮で終わるのではなく、しっかりと背景や目的を伝えることで、日常の環境活動にもつなげる。

[この取り組みを通じて実現できること]

学生委員会が一方的に指示してほかの組合員を動かすのではなく、学生委員会のボランティア活動でもなく、分別や環境配慮の活動を、みんなで一緒に取り組む姿勢が重要だと考えています。結果的に、環境活動は楽しいし、地球や自分の生活するコミュニティにとっても良いものであることを実感し、次の行動につなげることができました！

神戸大学（関西北陸BK）

PRP 古紙回収の取り組み

～既存の古紙回収の取り組みを見直した！～

●企画の背景・目的

神戸大学生協では、組合員の生活を分析する中で、「環境保全に対する意識が低い」ことが分かりました。実際、授業で使うレジュメなどをゴミとして廃棄している様子などを見て、学生にとって身近になり得る古紙回収の取り組みを強化することにしました。

①環境保全に対し、興味を持ってもらう。
②古紙回収BOXの的確な位置を組合員に把握してもらい、古紙回収BOXを利用してもらう。
③企画の情宣媒体として古紙回収BOXを学生委員に利用してもらう。

●取り組みの概要

すでに10年以上続いている古紙回収の取り組みに、より多くの組合員に目を向けてもらえるように工夫しました。

①回収BOXに2択アンケートを設置。
➡「組合員の目線立って考えた時、ただ古紙を入れるだけでは興味を持ってもらえない」という問題への改善策。

②ペットボトルキャップも回収！
➡「POPを作り環境保全啓発を促してはいるものの、古紙ではインパクトが弱い」という問題への改善策。

●組合員の反応

- ✓ 古紙回収の取り組みにおける工夫を続けたことで、学生委員会に対するアンケートにおいて、古紙回収BOXを増やしてほしいという要望が多く届くようになりました！
- ✓ 毎週、古紙回収BOXからあふれる程の古紙が投入されるようになりました。実際に投入した組合員の様子を見ると、古紙回収にかなりの需要があるとわかりました。
- ✓ 大学の環境報告書にも掲載されました。

●教訓POINT

- ✓ 10年以上続く取り組みでありながらも、企画を行う意義を再度学生委員会で確認し、より多くの組合員に関心を持ってもらうためにどうするか工夫することができた。
- ✓ 常に企画をよりよいものにする意識を忘れずの取り組む根気強さも重要。
- ✓ 「回収BOXでの2択アンケート」といった、組合員が環境活動に参加したくなる仕掛けを用意することで、キッカケを作れる！

[この取り組みを通じて実現できること]

神戸大学生協の古紙回収は、全国の大学生協における古紙回収活動の中でも最古参だと思います。神戸大学生協の強みは、半年に一度、通年企画も含めてすべての活動の企画書を作成し、企画のブラッシュアップをしている点が強みです。この古紙回収の取り組みも、組合員の目線に立って、考えなおしてみることで、さらに素敵な取り組みになりました。

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任

島根大学（中四BK）

Re-Use市

～卒業生の「あげたい」を新入生の「ほしい」に！～

● 企画の背景・目的

大量消費・大量廃棄による資源の枯渇や地球温暖化の進行など、環境に関する問題が挙がる中で、限りある資源を出来る限り再利用していく必要があるという現状がある。意外にも、この事実はあまり知られていない。だからこそ、この現状を多くの組合員が知り、環境問題に目を向けて考えて、改善するために行動を起こしていくことが望まれる。
また、「卒業時に用品の廃棄が大変」、「入学時の生活用品準備に関しての経済的な負担が大きい」という卒業生・新入生の現状の解決も必要とされている。

● 取り組みの概要

卒業生が在学中に使用していて、まだ使える家具・家電を集めて、新入生に無償で提供する企画。この企画に参加することで、卒業時に廃棄する予定だった、まだ使える家具・家電が新入生の元に渡る。それを再び使ってもらうことで、双方の組合員の思いをくみ取りつつ、リユース（再利用）の流れができる。
組合員がこの企画に参加することが、環境に対して行動していることに繋がる。企画を通して環境への関心を高めることを目標としている。

● 組合員の反応

期間を長めに設定した上、新入生サポートセンターにも呼び掛けていたため、多くの組合員に企画に参加してもらえた。卒業生から受け取った家具・家電はほとんど引き取り手が見つかった。そこから、最初に掲げていた双方の思いをくみ取ることも、リユースの流れを作ることもできた。
今後さらにRe-Use市が充実した多くの組合員に利用してもらえるように出た反省を来年度の実施に向けて改善して、繋げていきたい。

● 教訓POINT

現状の問題に合わせて的確な改善が行われている。環境活動と共に、組合員の悩みも解決することができている。卒業生が持続可能な取り組みである。
リユース（再利用）の流れを作るといった目的が、参加者に配慮した魅力的な考え方であると感じる。リユースの企画を事業として取り組むにはなかなかに難しい。運営者の工夫と熱意の大きさが、この取り組みを成功に導いている。

[この取り組みを通じて実現できること]
参加した新入生と卒業生に「リユースの意識」を持ってもらうことができ、持続可能なシステムが生まれると思います！捨てるという選択肢を減らすことができるのが魅力的ですね！

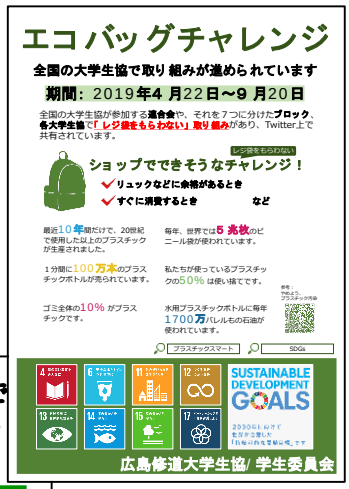
広島修道大学（中四BK）

エコバッグチャレンジ

～考えていきたい！環境のために何をするか～

● 企画の背景・目的

エコバッグが景品や粗品になるなど、環境に対する意識が社会的に定着しつつある中で、素材によってはエコバッグを生産すること自体が環境に悪影響を及ぼすこともあるほか、必要以上に消費者が求めているかに関わらず供給されるエコバッグそれ自体が資源の有効活用という考え方に合わないことも踏まえ、「限りある資源の有効活用」という目線から「レジ袋を消費しない」というよりも「必要以上にレジ袋を消費しない」という考え方を「限りある資源を有効活用する出発点」とする。



● 取り組みの概要

2点300円以上の買い物でレジ袋をもらわなかった場合にお菓子を渡すといった企画の実施。さらにはエコリスト（特別、環境問題を意識しているわけではないけれどちょっとした行動がエコっている人のこと）のすゝめといったレジ袋削減、リ・リパック回収の呼びかけも関連して行っていた。

● 組合員の反応

Twitterで＃（ハッシュタグ）をつけて企画を広めており、多くの参加によって予定数に達していた。レジ袋の有料化が発表された中で、組合員に取っても目を引く企画となった。
また、エコバッグチャレンジの呼びかけに使いやすい資料を作成し、中国四国ブロック大学生協のコミュニティ、C-netへ投稿することによって、活動の趣旨を共有した。

● 教訓POINT

環境問題にしっかりと向き合い、「自分たちはどのようなことができるか」を考え抜いた上で、組合員に呼びかける活動ができている。
エコバッグ以外にCOOL CHOICEとしてWARMBIZなど、時期にあった呼びかけを行ったいた。
多くの大学生協に対しても資料を共有し、環境活動を呼びかけていた。また、自大学生協の店舗と協力して企画を行っていた。

[この取り組みを通じて実現できること]

消費者として、エコな行動をするために何ができるかを考えることができると思います！
ちょっとした行動から始めることをみんなにすゝめることで、大きな変化が生み出せそうですね！

愛媛大学（中四BK）

キャンドルナイト

～みんなで作ろう！楽しい環境企画～

● 企画の背景・目的

現代の社会では環境について考える機会は少なくなっている。
そこで、食堂から出た廃油を再利用してキャンドルを作製し、キャンドルナイトを通じてリサイクルの大切さを学び、資源の有効活用について考えてもらいたいと考えた。
組合員に(1)電気のありがたみを感じてもらい節電を意識してもらうこと、(2)廃油で作ったキャンドルの光の温かみを感じてもらうことの２点を通して、リサイクルやエコ活動に興味を持ってもらうことを目的としている。

● 取り組みの概要

食堂で出た廃油を再利用し作製した、キャンドル(約1000個)を使ってキャンドルナイトを実施。
当日には、例年のアカペラサークルによるイベントや、教授による「ペットボトルロケットの実験」などを実施し、盛り上がる企画となっている。最近では軽音楽部の参加もあり、企画の規模が大きくなりつつある。
このイベントでのキャンドルを組合員と共に作成する「キャンドルメイク」の企画も行っている。

● 組合員の反応

参加者は約150人と好評で、学内の学生や組合員だけでなく、近隣の地域に住んでいる方々の参加もある。
参加者は年々増加している。
アンケートを実施しており、参加者は満足したという回答をしていた。
愛媛大学はキャンドルナイトの他にも様々な環境の取り組みをしており、継続的な活動によって組合員の意識も高まりつつある。

● 教訓POINT

電気のありがたみを感じるためにキャンドルナイトを企画するといった発想の転換に、視野の広さを感じる。身近且つリサイクルの意識と紐づけることができる食堂の廃油キャンドルを、作成するところから企画にしているのが魅力的。
電気を使わずに催しを披露できるアカペラサークルや軽音楽部、そして大学の教授といった他団体、さらに地域共同でのイベントづくりが、楽しい環境活動を生み出している動力となっている。

[この取り組みを通じて実現できること]
電気のありがたみを知ることで、参加者は日々の生活から電気の使い方を見直すことができると思います！地域に活気を呼ぶような楽しい環境活動企画が、年々磨かれていますね！

西南学院大学（九州BK）

新入生歓迎会（リ・リパック）

～すぐに始められる身近な環境活動が分かる！～

● 企画の背景・目的

昨年度の新入生歓迎会は、新入生が抱えている大学生活への不安を解消し、大きく環境の異なる大学でも充実して楽しい生活を送ってもらうことを目的として開催しました。そのために、先輩や同級生との交流による不安解消と、知っておくことで入学後に役立つ情報を伝えるように意識し、そのうちの一つの情報としてリ・リパックの時間を設けました。

● 取り組みの概要

西南学院大学におけるリ・リパックは、認知度が低く、入学後に得られる情報が少ないため、上級生でもリ・リパックの存在を知らない人もいます。新入生の理解を促し、環境保全のために、座学の時間の中にリ・リパックを取り入れました。また、リ・リパックの目的と役割を知って貰うために、社会貢献や募金の旨も説明しました。

● 組合員の反応

参加してくれたGLの中には、リ・リパックの存在を知らなかった方もいて、次回から協力しますと仰っていました。ただ、新入生歓迎会後にどのくらいリ・リパックに協力しているのか、覚えているのか、正確な人数は分からず、4月以降、少しずつ減少してる月もあります。リ・リパックの回収率は1年を通して1桁台で、知名度が高いとは言えないので、新入生歓迎会の参加者にその後の様子を聴くなど、継続のための声掛けも実施したいと思いました。

● 教訓POINT

ほとんどの新入生が参加するこの会で紹介することで、一度に多くの人に伝えられます。また、リ・リパックの仕組みや必要性を実感してもらうことで、活動に取り組もうとしてくれるのではないかと思います。大学生活のスタートにあたり、環境活動が身近にあること、誰でもできるということを知って貰い、生活の一部にすることで自然と環境の輪を広げるきっかけ作りにできたら良いなと思います。

[この取り組みを通じて実現できること]

入学前にリ・リパックの存在を知ることができると、意識できるので取り組みやすく、在学中に貢献できる数が増えそうですね！環境への配慮と共に身近な社会活動に繋がることを知り、新入生は、より取り組もうという意識が生まれるきっかけになるのではないかと思いました。

立命館アジア太平洋大学（九州BK）

ECO BOX(エコボくん)

～APU生協×APUの学生でレジ袋を考える！～

● 企画の背景・目的

学生理事の「生協のレジ袋配布を廃止したい」という声から、組合員に向けてアンケートを実施してくれたことがはじまりでした。彼は「ecos（エコス）」という環境サークル団体にも所属していたので、「できれば一人ではなく同じ意見を持った人たちでレジ袋廃止について考えていきませんか？」と生協が持ちかけたところ、彼らも賛同してくれました。
そこで出たのが、“エコボくん”を生協店舗に設置するというアイディアでした。

● 取り組みの概要

「エコボくん」は、自宅で余っている袋を収納し、袋が必要な人は取り出し、使用後は元に戻して貰うというsustainable boxです。
立命館生協至徳館購買店（京都）の事例を参考に、学生がアイディアを出してくれました。
レジ袋を貰わないようにしてもらうにはどうすればいいのか？使ってすぐ捨てるのではなく、次に使う人に譲る、使えなくなるまで使う、もったいない精神を根付かせる取り組みでもあります。
環境問題に明るくない人にも「エコボくんに袋をfeed（食べさせる）して！」という表現で親近感を持って使用してくれているのではと思います。

● 組合員の反応

最初は、生協のスタッフが持ち寄ってusedの袋をエコボくんに入れて続けていましたが、徐々に学生も入れてくれるようになりました。ecosサークルメンバーが様々なイベント会場でエコボくんを“出張”させて、取組みを紹介してくれた成果だと思います。

● 教訓POINT

エコボくんの設置とecosサークルメンバーの活動によって、組合員が普段の生活で自然と楽しみながらレジ袋廃止について考えられるシチュエーションができあがりました。
組合員自らの目線で「楽しい」「身近に感じる」「親しめる」と思えることが、取り組みが継続していく秘訣だと思います。

[この取り組みを通じて実現できること]

レジ袋削減のためにただ有料化するのではなく、何度も使うという発想が素敵ですね。
レジ袋などのプラスチックは便利なのですぐに０にすることは難しいですが、組合員がプラスチックの削減について楽しみながら考える機会になっています。

2020年度環境担当
～紹介と意気込み～

● 皆川淳哉（みなじゅん）長野大

一人一人が考えて動くことで、私たちが理想としている持続して住みやすいの地球にすることができます！
そのために、まずは、近くにいる仲間と一緒に環境活動の輪を広げるために、このeco-opをもとに学習をしましょう！

● 鈴木郁（かをる）東北学院大

東北学院大学で共生社会について学んでいました！地球市民として、自然との共生を皆さんと一緒に考えてきたいです！
ぜひ想像力を働かせて、自然環境が良くなることが人にとってもどう良いのか、たくさんのワクワクを持って行動をしていきましょう！
このeco-opはそんなワクワクの材料がたくさん載っています！ドンドン活用していきましょう！

● 田島慶大（けーた）東京農業大

大学でも環境について学んでいて、こういった形で皆さんと共に頑張れるのはとてもうれしいです！
18年度に発行したeco-opにも関わりましたが、環境活動を始める人、環境問題や他大学の事例を知りたい人にはぜひ手に取ってほしいです！**そして読んでくれたそこのあなた、これから環境活動を広げていく存在になってください！**

● 一緒に頑張っている職員です♪

連合会職員
内堀 均
全国大学生協連
/組織運営部

JUON NETWORK
鹿住 貴之
JUON NETWORK
事務局長

日常的な会議や全国環境セミナーの作りこみの時に、職員ならではの目線で意見をしてくれます！

Point

2020年度はこのメンバーが中心となり、全国の環境活動の旗振り役となって頑張ります！みなさんも自分の身の回りのことから行動してみましょう！

編集後記

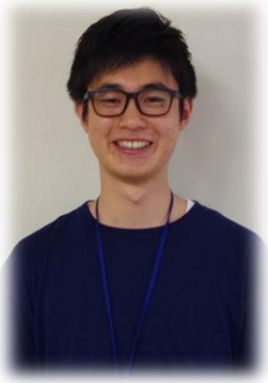
●全国環境活動推進委員会／全国環境セミナー2019実行委員会

『eco-op2020 ～環境活動の手引書～』は、全国環境セミナー2019実行委員会を中心に編集しました。

「全国環境セミナー2019」の学びづくりはもちろん、2019年度、全国7ブロックで環境活動を推進してきたメンバーが編集委員です！

1年間の活動の集大成としての想いがつまったこの学習冊子を、ぜひ各会員生協で積極的にご活用ください！

●全国環境セミナー2019企画責任者よりメッセージ



金田 直己
岡山大学出身

『環境活動』というと、自分たちがやっていることが具体的に何につながっているのかをみることが難しく、どうやって活動していこうかと頭を悩ます機会がたくさんあります。

今年１年間、環境分野担当として色々と考えながら活動をしてきましたが、結局何をするのが正解だったのかはよくわかりませんでした。地球という大きな存在に影響を及ぼすのはたった一人の行動では難しいでしょう。しかし、『地球』という限りある一つの共有財産をお互いに奪い合うのではなく、同じ地球の市民としてその財産をどう生かすのかを考えていくことは誰にでもできることではないのでしょうか？

この１年間を通して、自分が環境について一生懸命考え、その考えや意見を友人や一緒に頑張る仲間に伝え、そして共感してくれる仲間たちが増えていったということだけは確かな実感を持っています。

ただひたすら正解だけを探し求めて何もできないよりも、自分は今、何ができるのだろうかと考え続けながら、まずは一歩でも動くことが大切です。

私たちの『考動』が将来を支えるものであると信じながら、少しずつ、前へと、歩み続けていきたいと思っています。

●『eco-op2020』編集長よりメッセージ

矢間 裕大
大阪大学出身

『eco-op2020 ～環境活動の手引書～』をお読みいただきありがとうございました。皆様のご協力により、全国環境セミナーの学びと、全国各地の大学生協における環境活動の実践が詰まった冊子になりました。全国環境活動推進委員会の皆様、ならびに事例掲載にご協力いただいた会員生協の皆様に改めて感謝申し上げます。

1年間、環境活動の推進に関わる中で、環境活動の魅力は「みんなでやろう！」が実践しやすいことだと実感しています。いま、地球を取り巻く課題はたくさんありますが、国籍・人種・宗教などを超えて、人類にとって共通する課題は、環境問題です。私たちは、この問題に対してすぐに行動すべき状況にいます。だからこそ、まずはお隣さん、あなたの仲間とともに環境活動をやってみましょう！自分の勇気ある行動と、少しでも仲間を増やして実践することが、環境問題の解決の大きな第一歩になるはずです。その行動のヒントとして、本冊子が活用されることを切に願っています！一緒に頑張りましょう♪

私は今から
こんな環境活動をします

● **eco-opを読んで、自分が取り組もうと考えた環境活動を書きましょう！**

アンケートへの回答にご協力ください！

『eco-op2020～環境活動の手引書～』を最後までお読みいただきありがとうございました。
今後の全国大学生協連の環境活動の推進および発行物の改善・向上のため、アンケートへのご回答にご協力をお願いいたします。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=pmuBgKrkMkCXgNryBVYr6I6kNl0hQu1Juv0WIVGsyoBUM0lWVVQ0Uk5GM0FCTTJNVEdZOEc1RUdCUS4u

eco-op2020～環境活動の手引書～

2020年2月発行

発行元:全国大学生活協同組合連合会
発行責任者:全国大学生活協同組合連合会 専務理事
編集者:2020年度 全国大学生協連 社会的課題委員会
（2019年度全国環境活動推進委員会）

◆この冊子に関するお問い合わせ先
〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22
Email：nfuca-gakusei@univ.coop

univ. CO-OP